



西宮市津門大塚町遺跡 発掘調査現地説明会に参加

2023.2.4.

古墳時代の西宮市の海岸近くに位置する津門大塚古墳周辺の集落遺跡
6世紀後半の建物群跡から鉄鍛冶工房を想起する羽口鉄滓・砥石などが出土

久し振りに聞く阪神間で出土した製鉄関連遺跡 西宮市津門大塚町遺跡
それもよく知る阪神国道(R02号)西宮市津門の旧アサヒビール西宮工場跡地から。
六甲の山裾ではなく、大阪湾に面した阪神間の沿岸部に位置する古墳時代の堅穴住居群跡から鉄鍛冶遺物が出土し、鉄鍛冶工房があった集落遺跡が想起されるという。

六甲の山裾の高地性集落・鍛冶工房や古墳は知っていますが、今まで頭になかった西宮の海岸部にある古墳時代の鉄鍛冶工房。古代西宮の沿岸はどんな だったのだろうと。

西宮は今もそうですが西国街道と大阪への浜街道の結節点。
でも江戸時代になっても 阪神間は神戸まで東の尼崎藩の領地で えびす神の総社西宮神社の賑わいはあれど街道筋に点々と農村集落が続く沿岸。西宮沿岸はよく知らぬ地帯。なんで、西宮沿岸に鉄鍛冶工房があるのだろうか……と。

よく知らなかった西宮の古代と湊を想起させる「津門」・「今津」の地名。

この地名から 大阪湾に面した西宮の地形を調べてびっくり。

阪神間は六甲の山裾から大阪湾へ、きつい傾斜地を幾筋もの川が流れ下る扇状地。

古代にはこれらの川が運ぶ土砂が川筋や河口を刻々変化させていったという。

古代西宮の津門沿岸は当時 大きく北に海が入り込み良港を形成し、この沿岸に沿って点々と古墳がある摂津と播磨を海路で結ぶ重要地点。やがては土砂が内海を埋め尽くし、内海の痕跡も消してしまうのですが、まだ 内海があり、湊があったと考えられる時代の古墳時代の集落跡から鉄鍛冶遺物が出土。湊を通じての外部との交流が、ここに鍛冶工房を形成させたのかもしれない。

阪神間の沿岸部ではほとんど出土のイメージのない「鉄鍛冶工房」。

興味津々で 西宮市津門大塚町遺跡発掘現場の説明会に参加しました。



阪神国道 津門歩道橋から眺めた鍛冶遺物出土した津門大塚町遺跡の全景 2023.2.4.
右端歩道橋奥に阪急今津線 中央奥 遺跡の背後にJR神戸線が見える
かつてアサヒビール西宮工場の跡地で再開発事業が進んでいる 遺跡には西宮医療センターが建てられる



西宮市津門大塚町遺跡 発掘調査現地説明会に参加 2023.2.4.

6世紀後半の建物群跡から鉄鍛冶工房を想起する羽口鉄滓・砥石などが出土

【参考】津門大塚町遺跡 発掘調査 現地説明会資料 2023.2.4.

<https://infoykkna2.com/ironroad2/2023htm/2023iron/23iron02Gensetsu.pdf>



<https://infoykkna2.com/ironroad2/2023htm/2023iron/23iron02.pdf>



<https://infoykkna2.com/ironroad2/2023htm/2023iron/23iron02photo.pdf>

竪穴建物33棟の跡が見つかった。6世紀後半の建物跡からは鉄器製作の名残が出土しており、鉄を生産・加工する集団が住んでいた可能性がある。
(山岸洋介)

新たに古墳時代の方墳2基、竪穴建物33棟の跡

鉄鍛冶工房の名残発見

アサヒビール西宮工場跡地・津門大塚町遺跡



鉄を生産する工場だったとみられる建物跡(右側)。
右側は古墳時代中期の万墳。いずれも津門大塚町遺

近畿屈指の規模 鉄器製作に使う砥石など出土



古墳時代中期～後期の建物
で見つかった鉄生産の名残
手に持つのは「羽口」と不純
の「鉄滓」。手前右は「鑛石」。

朝鮮半島で作られた陶質土器。現在の韓国南西部で焼成されたとみられる。

分ける上基は一辺が約913
ミ。周縁から、初期築
造とされる古式土質平
屋敷や土間のほかに、朝鮮
半島で作られた陶器が内
出した。陶器土質が内
で見つかるのは初めて。
37棟の建群は方違でそ
ろばあり、うち3〜4棟か
らは、結構な石にせられた
扉や、ふいごなど砂風土
を塗り込めた土製窓を
（図6）鉄を精錬した炭
に生じる赤褐色（鉄屑）
を敷き出した。

跡部から各邸を尋ねて
いくと、その名が見つか
り、10基の名前が見つかり

明治時代中期、後期に築造さ
れたと思われる、古蹟地帯
集落近くにある。最も
数が多いこの集落より
鉄を煮るものの一つに
いた集団が住んでいたの
と推測している。

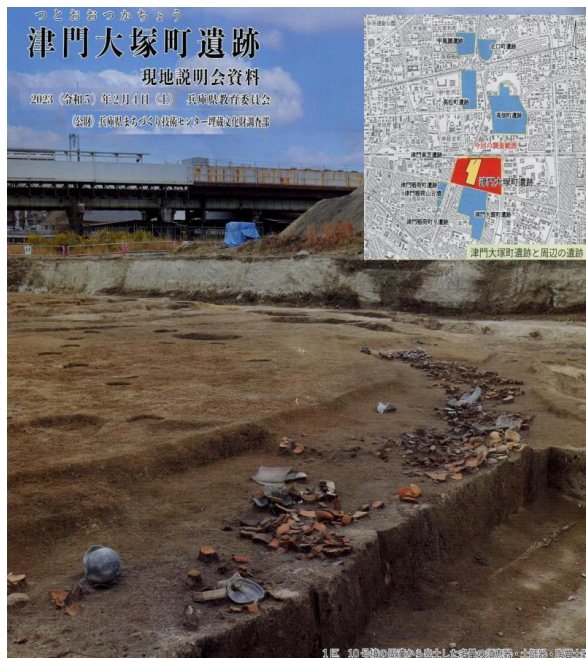
現在説明台が月4日
前10時、午後時の巡回
行、約の駐車場へ。小雨
湿事務所 電話 98-98-22

大御堂屋敷のパネル展
2011年1月5日、西
宮川岸町の市立郷土資料館
開く。開かれる。

神戸新聞2023.1.31,朝刊阪神版より

古墳時代の西宮市津門大塚古墳周辺の集落跡
津門大塚町遺跡 現地説明会
2023.2.4.

古墳時代の西宮市津門大塚古墳周辺の6世紀後半の建物群跡から鉄鍛冶工房を想起する鉄滓・砥石などが出土
阪神間の海沿いでは全く知らぬ古墳時代の鍛冶工房跡の発見か…と興味津々



つとのおつかちょう
津門大塚町遺跡
現地説明会資料

2023《令和5》年2月4日（土）兵庫県教育委員
（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査



古代には今の西宮の中心部まで、奥深く内海が入り込んでいた津門・今津という地名は港があった名残であろう

場所はよく知る西宮市津門 高架の阪急今津線を阪神国道(R2号線)がクロスして潜る場所。

旧アサヒビールの西宮工場跡地で、車で国道を通るたびにブルーシートが見えて発掘調査をしているなどと思っていた場所。

◆津門

古代には今の西宮神社から阪急神戸線辺りまで、海と言われ、阪神間は幾筋もの川が流れ下る扇状地。

西宮は西に夙川 東に御手洗川そして武庫川に挟まれ、西宮の中心部は北へ入り組んだ内海。その海岸線と六甲の高台には幾つも遺跡があり、内海が存在が見える。

その船だまりに水門（みなと）ができ、港の入口「津の戸」が『津門（つと）』と呼ばれるようになりました。

日本書記（奈良時代に成立した日本の歴史書）によると、
ここ津門の港に諸国から500隻もの船が集まったという。

この内海は川から流れた土砂で、次第に陸地化し、海に突き出たゴブのようなエリアは宮水が湧き出る場所として有名な宮水地帯。六甲山地を源として流れ出た清冽な水が、伏流になりこの地下を流れています。宮水が酒造用水として無比の霊水といわれる所以は塩分と硬度が比較的高いところ。それは、かつてこの地域一帯が入り海であったことと関係があるのかもしれない。

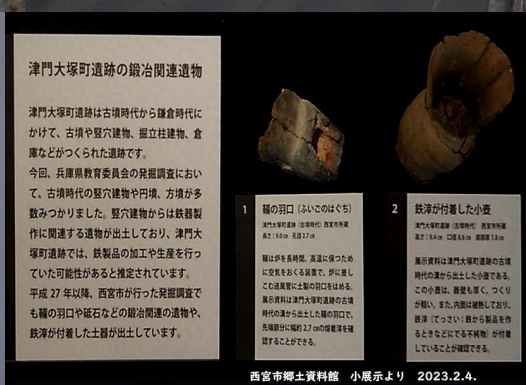
©西宮の古代地形を歩くより抜き書き <http://osakakoteisa.blog.fc2.com/blog-entry-12.html>、

古代西宮の海岸線はこんな内海のある海岸線だったのやと初めて。　　そういえば、かつて東の甲子園　西の香露園はかつて海水浴場としてにぎわった砂浜。でも西宮の中心部は砂浜がなかったなあと。

阪神国道 津門歩道橋から眺めた鍛冶遺物が出土した津門大塚町遺跡の全景 2023.2.4.
右端歩道橋奥に阪急今津線阪神国道駅 中央奥 遺跡の背後走るJR神戸線が見える



阪神国道 津門歩道橋から眺めた鍛冶遺物が出土した津門大塚町遺跡の全景 2023.2.4.
右端歩道橋奥に阪急今津線 中央奥 遺跡の背後にJR神戸線が見える
かつてアサヒビール西宮工場の跡地で再開発事業が進んでいる 遺跡には西宮医療センターが建てられる





古墳時代中期 左端の10号墳に隣接して密集する竪穴住居群 津門大塚町遺跡一区全景 北側より



左端の10号墳周辺 古墳中期の層が見られているが、この層の上には奈良から鎌倉時代の掘立柱建物等が重なっており、古墳時代の中期の現層にも数多くの竪穴建物の柱跡が切りあっていて、南の内海に沿って古墳の周りに集落を形成していた様子が見て取れる



Ⅰ区 東側部を北東端より

古墳時代中期 10号墳を取り囲む周壕が見え、その南にも竪穴建物群が密集して取り囲みさらに東へ建物群が繋がっている

津門大塚町遺跡の所以 海を南に眺める集落遺跡であろうが、どんな性格を持つ集落なのかはこれからの遺跡発掘と出土遺物による。鉄遺物が出ていることから、この遺跡内に鍛冶工房があったことも考えられ、津門の港の大集落の夢も膨らむ 2023.2.4.



鉄鍛冶関連遺物については詳しくは説明されなかったが、いくつかの建物から鉄鍛冶関連遺物が出土したという。鍛冶炉の痕跡を示す焼土面の痕跡もなく、残念ながらこの建物が鍛冶工房遺構には見えず。鉄鍛冶工房発見とはいかず、今後の調査解析が待たれます。 2023.2.4.



見つけた33の堅穴建物群のいくつかに分散して鉄鍛冶関連遺物が見つかった。遺物の見つかった堅穴住居内では鍛冶炉も焼土も見つからず、鍛冶工房の痕跡は見つからず。大塚古墳の周辺に堅穴建物群で形成された集落があり、その街で鍛冶遺物が共有されていたのか、この集落内のどこかに鍛冶工房があるのか・・・今後の発掘とこの遺跡の遺物解析を待たねばならないと聞きました。

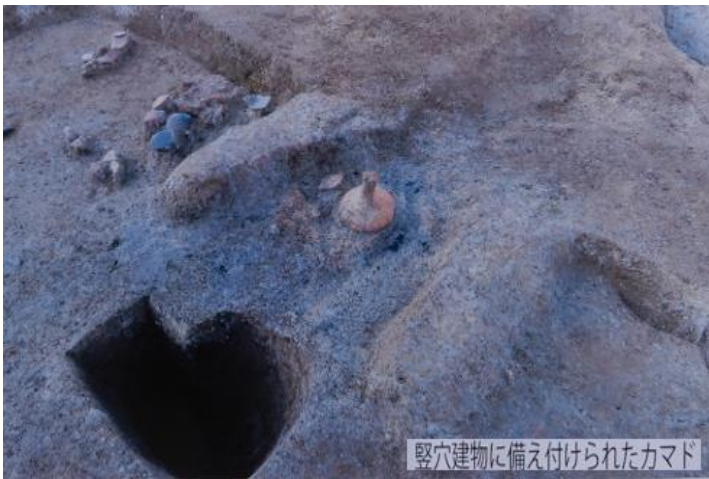
鍛冶関連遺物が出土した堅穴建物



鍛冶関連遺物が出土した竪穴建物



密集する竪穴建物



竪穴建物に備え付けられたカマド



古墳と竪穴建物群

鍛冶遺物が出土した津門大塚町遺跡遺構 Photoパネル 2023.2.4.
右端歩道橋奥に阪急今津線阪神国道駅 中央奥 遺跡の背後走るJR神戸線が見える



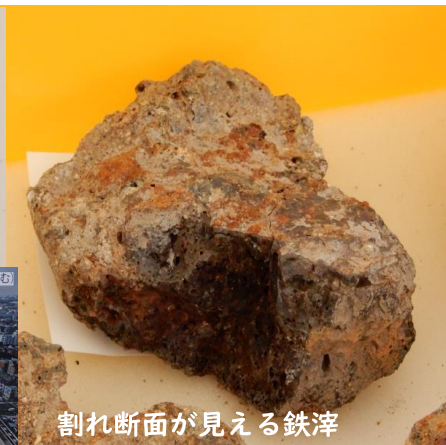
鉄塊と鉄滓



羽口と砥石



鉄塊



割れ断面が見える鉄滓



調査地(1区)と周辺の風景(北から南を望む)

津門大塚町遺跡(一区から出土した鉄鍛冶関連遺物)



・ 古墳時代中期の陶質土器



古墳時代中期の須恵器と土師器



10号墳から出土した土器



津門大塚町遺跡(一区から出土した遺物)

津門大塚町遺跡の鍛冶関連遺物

津門大塚町遺跡は古墳時代から鎌倉時代にかけて、古墳や竪穴建物、掘立柱建物、倉庫などがつくられた遺跡です。

今回、兵庫県教育委員会の発掘調査において、古墳時代の竪穴建物や円墳、方墳が多数見つかりました。竪穴建物からは鉄器製作に関連する遺物が出土しており、津門大塚町遺跡では、鉄製品の加工や生産を行っていた可能性があるかと推定されています。平成 27 年以降、西宮市が行った発掘調査でも竈の羽口や砥石などの鍛冶関連の遺物や、鉄滓が付着した土器が出土しています。



1 竈の羽口 (ふいごのはぐち)

津門大塚町遺跡 (古墳時代) 西宮市所蔵
長さ: 9.0 cm 孔径: 2.7 cm

竈は炉を長時間、高温に保つために空気をおくる装置で、炉に差しこむ送風管に土製の羽口をはめる。展示資料は津門大塚町遺跡の古墳時代の溝から出土した竈の羽口で、先端部分に幅約 2.7 cm の熔着滓を確認することができる。



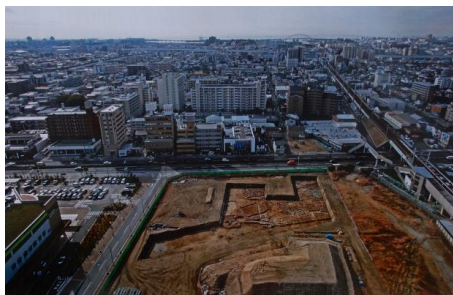
2 鉄滓が付着した小壺

津門大塚町遺跡 (古墳時代) 西宮市所蔵
高さ: 9.4 cm 口径: 8.6 cm 底部厚: 1.8 cm

展示資料は津門大塚町遺跡の古墳時代の溝から出土した小壺である。この小壺は、器壁も厚く、作りが粗い。また、内面は被熱しており、鉄滓 (てっさい: 鉄から製品を作るときなどにでる不純物) が付着していることが確認できる。

西宮市郷土資料館 小展示より 2023.2.4.

阪神香櫨園駅南 夙川沿い西宮市川添町にある西宮市郷土資料館でもPhotoパネルと小展示が行われていましたので立ち寄りました。今回の発掘調査以前にも羽口や砥石などが出ているようなので、津門大塚町遺跡の未調査部分から炉跡や鍛造剥片など鍛冶工房機能が明確に判る工房跡見つかるかもしれません。



調査地(1区)と周辺の風景(北から南を望む)



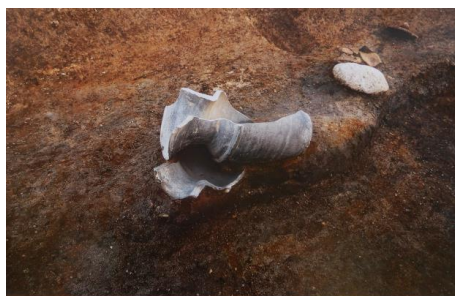
1区1面目掘立柱建物群(北から南を望む)



平安時代の道路状遺構



平安時代の掘立柱建物



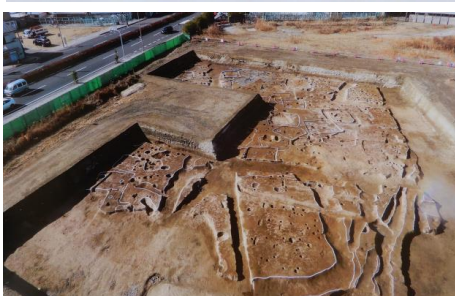
土坑から出土した平安時代の須恵器壺



1面目で出土した馬の下顎と歯



1区第2面全景写真(上が北)



古墳群と密集する竪穴建物群



10号墳全景

西宮市津門大塚街遺跡 発掘調査Photo パネル【I】 現地説明会場で



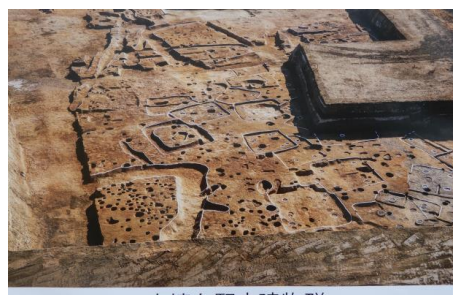
10号墳周濠の掘削作業



10号墳周濠内から見つかった陶質土器



10号墳周濠の遺物出土状況



古墳と竪穴建物群



密集する竪穴建物



鉄遺物が出土した竪穴建物の一つ

西宮市津門大塚街遺跡 発掘調査Photo パネル【II】 現地説明会場で

断たに古墳時代の方墳2基、竪穴建物3棟の跡

鉄鍛冶工房の名残発見

近畿圏内の規模 鉄器製作に使う砥石など出土

神戸新聞2023.1.31.朝刊版神威より

古墳時代の西宮市津門大塚古墳周辺の集落跡 津門大塚町遺跡 現地説明会 2023.2.4.

古墳時代の西宮市津門大塚古墳周辺の6世紀後半の建物群から鉄鍛冶工房を想起する鉄滓・砥石などが出土。阪神間の海沿いで、全く知らぬ鉄鍛冶工房跡の発見が…と興味津々...

津門大塚町遺跡

津門大塚町遺跡

場所はよく知る西宮市津門。高層の阪急今津線を阪神園道(R2号線)が渡る場所。旧アサヒビールの西宮工場跡地。車で通るたびにブルーシートが見えて発掘調査をしているなど思っている場所です。

◆津門

古代には今の西宮神社から阪急神戸駅まで、海と岩、阪神間は能登川の川が流れる下流の集落跡。西宮は西に夙川、東に御手洗川そして武庫川に挟まれ、西宮の中心部は北へ入り組んだ内海。その海岸線と六甲の山麓には幾つもの遺跡があり、内海の存在が見える。その船だまりに水門(みど)が、港の入口「津の戸」が「津門(つと)」と呼ばれるようになりました。

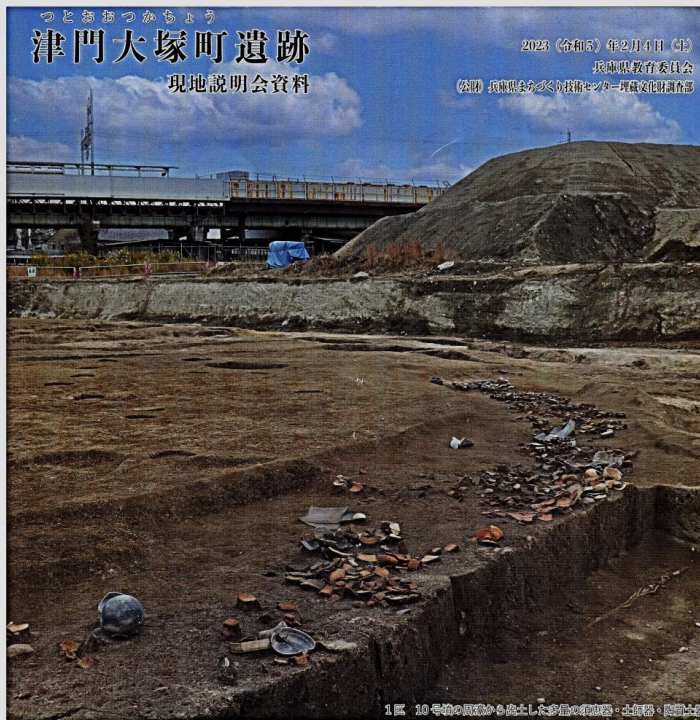
日本書紀(奈良時代に成立した日本の歴史書)によると、この津門の海に諸国から500隻もの船が集まったという。この内海は川から流れた土砂で、次第に陸地化し、海に突き出たコブのようなエリアは宮水が湧き出る場所として有名な宮水地帯。六甲山地を源として流れ出た瀬川が、夜流になりこの地下を流れています。宮水が通過するとして無数の泉水といわれる所以は地形と構造が比較的良好なところ。それは、かつてこの地域一帯が海にあり、海と関係があるのかもしれない。

◎西宮の古代地形を争くより読み書き <http://osakakotetisa.blog.fc2.com/blog-entry-12.html>

2 鉄滓が付着した小壺

津門大塚町遺跡(古墳時代) 西宮市所蔵 高さ:9.4cm 口径:8.6cm 底径:7.8cm

展示資料は津門大塚町遺跡の古墳時代の遺物から出土した小壺である。この小壺は、器壁も厚く、つくりが粗い。また、内面は被蝕しており、鉄滓(てつさい)が凝り固まり、鉄滓が付着していることが確認できる。



津門大塚町遺跡

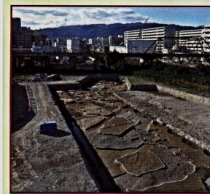
つとのおおづかちょう

2023(令和5)年2月4日(土)
兵庫県教育委員会
(公財) 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

現地説明会資料

1区 10号墳の周溝から出土した多数の須恵器・土師器・陶質土器

調査成果のまとめー古墳時代における津門地域の古墳と集落ー



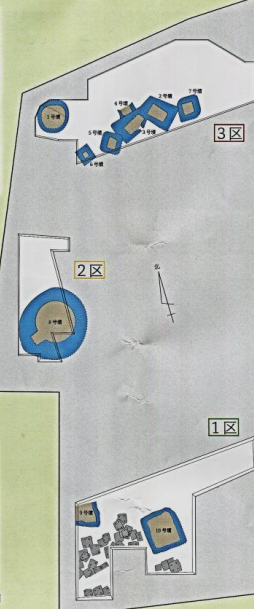
3区 古墳群遠景(東から西を望む)



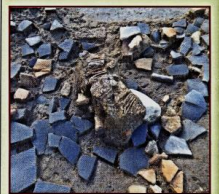
2区 8号墳全景(西から東を望む)



2区 8号墳くびれ部で見つかった埴輪



1～3区下層の調査成果



3区 5号墳周溝から出土した馬の歯



3区 5号墳周溝から出土した牛の歯



1区 古墳と密集する竪穴建物群(東から西を望む)

今回の発掘調査の結果、古墳時代から鎌倉時代にかけての多くの遺構と遺物が見つかりました。その中でも特筆すべき成果としては、古墳時代の古墳群と集落の発見が挙げられます。

古墳群は、前期(4世紀頃)の円墳1基、中期前半(5世紀前半)の方墳2基、後期後葉(6世紀後半)の円墳1基・方墳6基の計10基を出土しました。中期の古墳の周溝からは、多量の須恵器や土師器と共に陶質土器や鉄器が出土しました。陶質土器は朝鮮半島南部で作られた物と考えられ、これらの地域と積極的に交流を持っていたことが伺えます。後期の古墳の周溝からは、多くの埴輪が出土した他、牛と馬の歯が見つかりました。牛の歯が古墳から出土した事例は日本列島でも極めて少なく、今回の発見は大変重要な成果といえます。

古墳群の南側では、方形の竪穴建物を33棟検出しました。これらの建物は、出土土器から古墳時代中期から後期にかけての建物であると判断でき、古墳群の造られた時期と同じであると考えられます。これらのことから、この建物に住んでいた人々は、古墳群の造営集団である可能性が高いです。また、これらの建物からは鉄器製作関係の遺物が多く見つかっており、鉄器の製作・加工に従事していた集団が住んでいたとも考えられます。

陶質土器、牛馬の歯の出土や埋没古墳の検出は、いずれも西宮市域で初の事例であり、今回の発掘調査は西宮を含む阪神地域の歴史を考えるうえで大変貴重な成果を得たといえます。



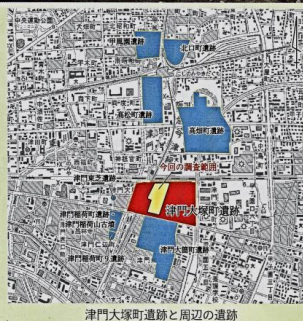
兵庫県教育委員会
(公財) 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 (兵庫県立考古博物館内)
URL: <https://www.hyogo-etc.or.jp>

はじめに

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターでは、兵庫県立西宮総合医療センター(仮称)整備に伴い、兵庫県教育委員会から委託を受けて、津門大塚町遺跡で調査区を3箇所(1区～3区)に分けて発掘調査を行っています。

調査の結果、上層(平安～鎌倉時代)と下層(古墳～奈良時代)で多くの遺構や遺物が見つかりました。注目できる成果としては、2・3区下層では、古墳時代後期(今から1450年前)の古墳8基と多くの埴輪や須恵器、牛馬の歯が見つかり、1区下層では古墳時代中期～後期(今から1600～1450年前)の竪穴建物33棟や古墳時代中期の古墳2基が見つかりました。1区の古墳の周溝からは、多くの須恵器や土師器と共に陶質土器という朝鮮半島産の土器が見つかりました。

今回の説明会では、1区下層の調査成果を中心に公開します。



津門大塚町遺跡と周辺の遺跡

1区上層の調査成果



1区上層では、奈良時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物や井戸、木棺墓、道路状遺構を検出しました。掘立柱建物は、現在8棟見つっていますが、その他にも多くの柱が見つまっていることから、今後さらに増えると考えられます。

調査区の中央付近では、平安時代頃の南北方向に並行する溝を検出しました。この溝と溝に挟まれた場所では、周辺と異なる固くたたき締められた土が堆積しており、道路状遺構の可能性が考えられます。この道路状遺構と掘立柱建物のいくつかは、南北の主軸方向を同一にしており、道路沿いに建ち並んだ中世集落を想定することができます。



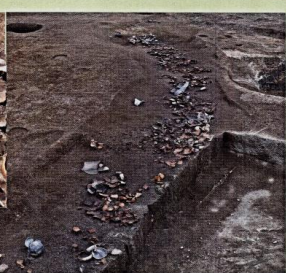
平安時代の掘立柱建物群(北西から)



平安時代の道路状遺構(北から)



10号墳周溝内からの陶質土器



10号墳周溝から見つかった土器(南東から)



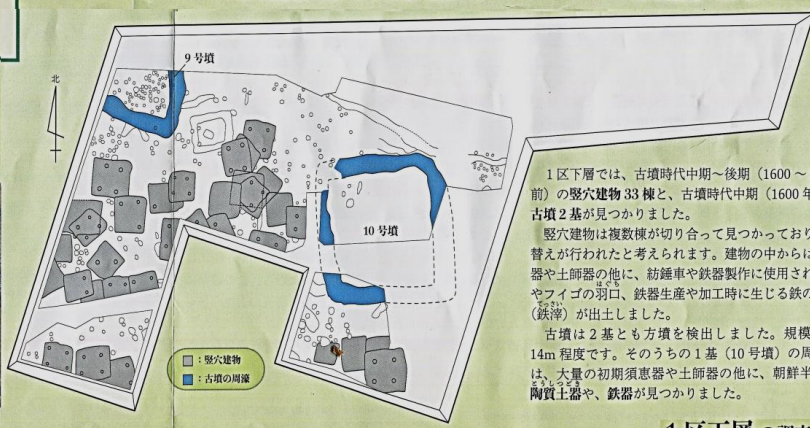
10号墳全景(北から)



竪穴建物から見つかった土器



密集する竪穴建物(北東から)



1区下層では、古墳時代中期～後期(1600～1450年前)の竪穴建物33棟と、古墳時代中期(1600年前)の古墳2基が見つかりました。

竪穴建物は複数棟が切り合っており、建て替えが行われたと考えられます。建物の中からは、須恵器や土師器の他に、紡錘車や鉄器製作に使用された砥石やフイゴの羽口、鉄器生産や加工時に生じる鉄の不純物(鉄滓)が出土しました。

古墳は2基とも方墳を検出しました。規模は一边14m程度です。そのうちの1基(10号墳)の周溝からは、大量の初期須恵器や土師器の他に、朝鮮半島産の陶質土器や、鉄器が見つかりました。

1区下層の調査成果



阪神国道 津門歩道橋から眺めた鍛冶遺物が出土した津門大塚町遺跡の全景 2023.2.4.
右端歩道橋奥に阪急今津線 中央奥 遺跡の背後にJR神戸線が見える
かつてアサヒビール西宮工場の跡地で再開発事業が進んでいる 遺跡には西宮医療センターが建てられる



津門地域の主要遺跡（黄色が今回の調査範囲）



西宮市郷土資料館 小展示より 2023.2.4.

西宮市津門大塚町遺跡 発掘調査現地説明会に参加 2023.2.4.
6世紀後半の建物群跡から鉄鍛冶工房を想起する羽口鉄滓・砥石などが出土

【参考】西宮津門大塚町遺跡 現地説明会資料

<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/2023iron/23iron02Gensetsupdf>



Web
Book

<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/2023iron/23iron02.pdf>



Photo
Book

<https://infokkna2.com/ironroad2/2023htm/2023iron/23iron02photo.pdf>

春の息吹 足元から 神戸でフキノトウ

神戸新聞朝刊 2023.2.6.



春の訪れを告げるフキノトウ＝神戸市西区押部谷町木見



春の息吹 フキノトウ 西神戸で

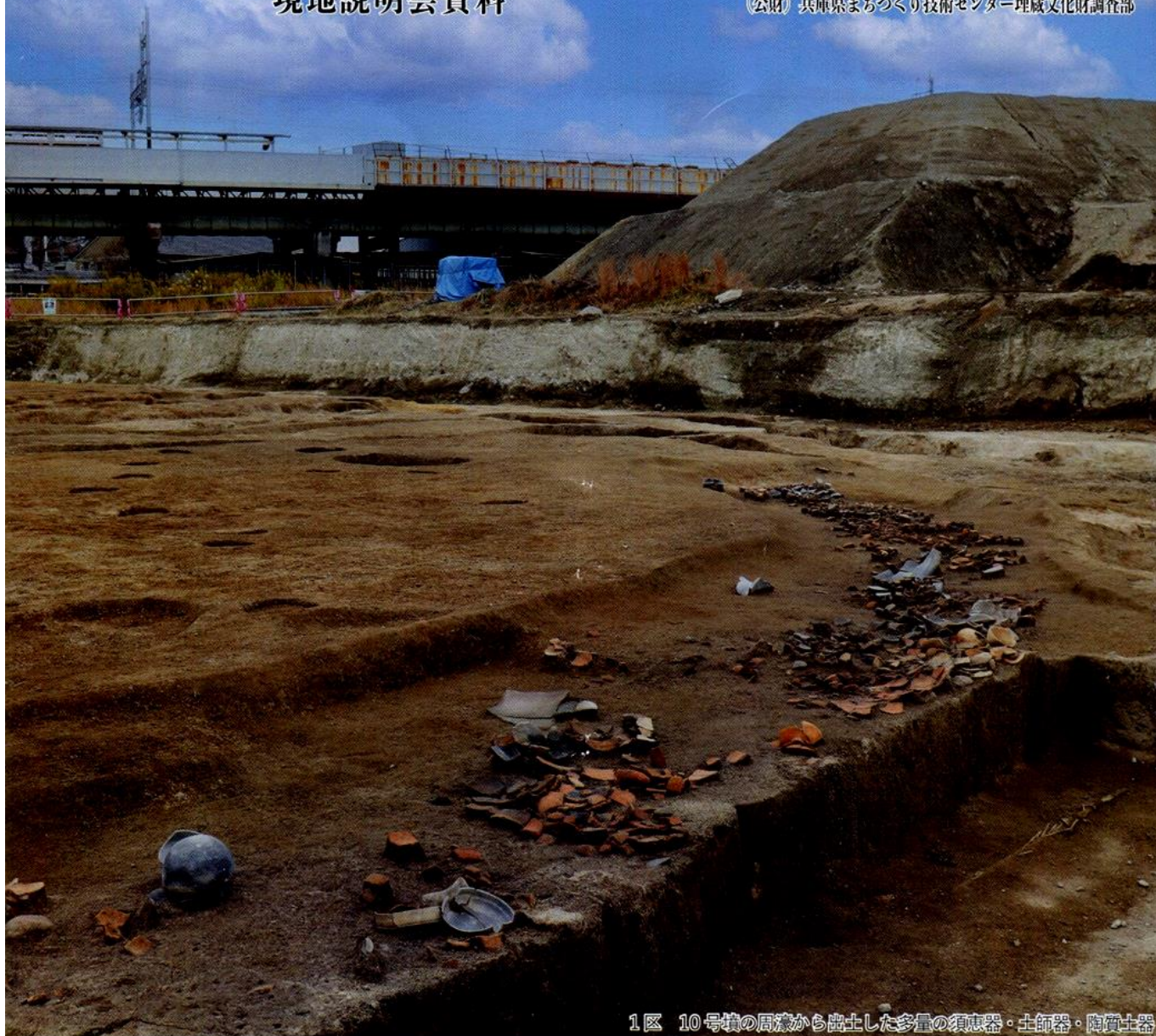
厳しい寒さでしたが、立春と共に
暖かい日差し 春遠からじ

つとおおつかちょう
津門大塚町遺跡
現地説明会資料

2023（令和5）年2月4日（土）

兵庫県教育委員会

（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部



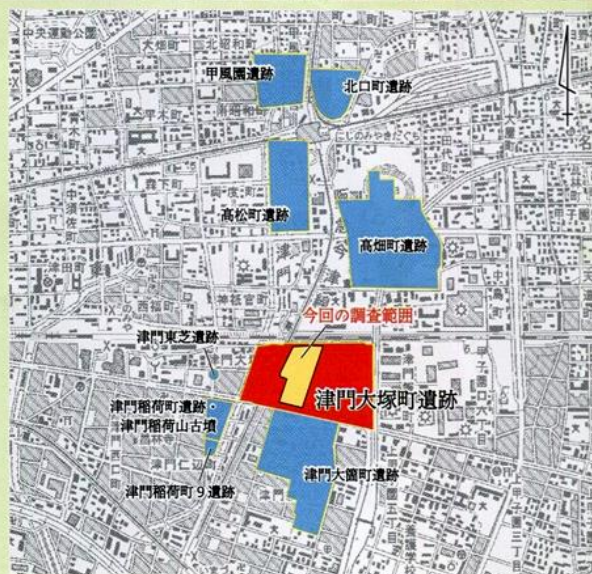
1区 10号墳の周濠から出土した多量の須恵器・土師器・陶質土器

はじめに

（公財）兵庫県まちづくり技術センターでは、兵庫県立西宮総合医療センター（仮称）整備に伴い、兵庫県教育委員会から委託を受けて、津門大塚町遺跡で調査区を3箇所（1区～3区）に分けて発掘調査を行っています。

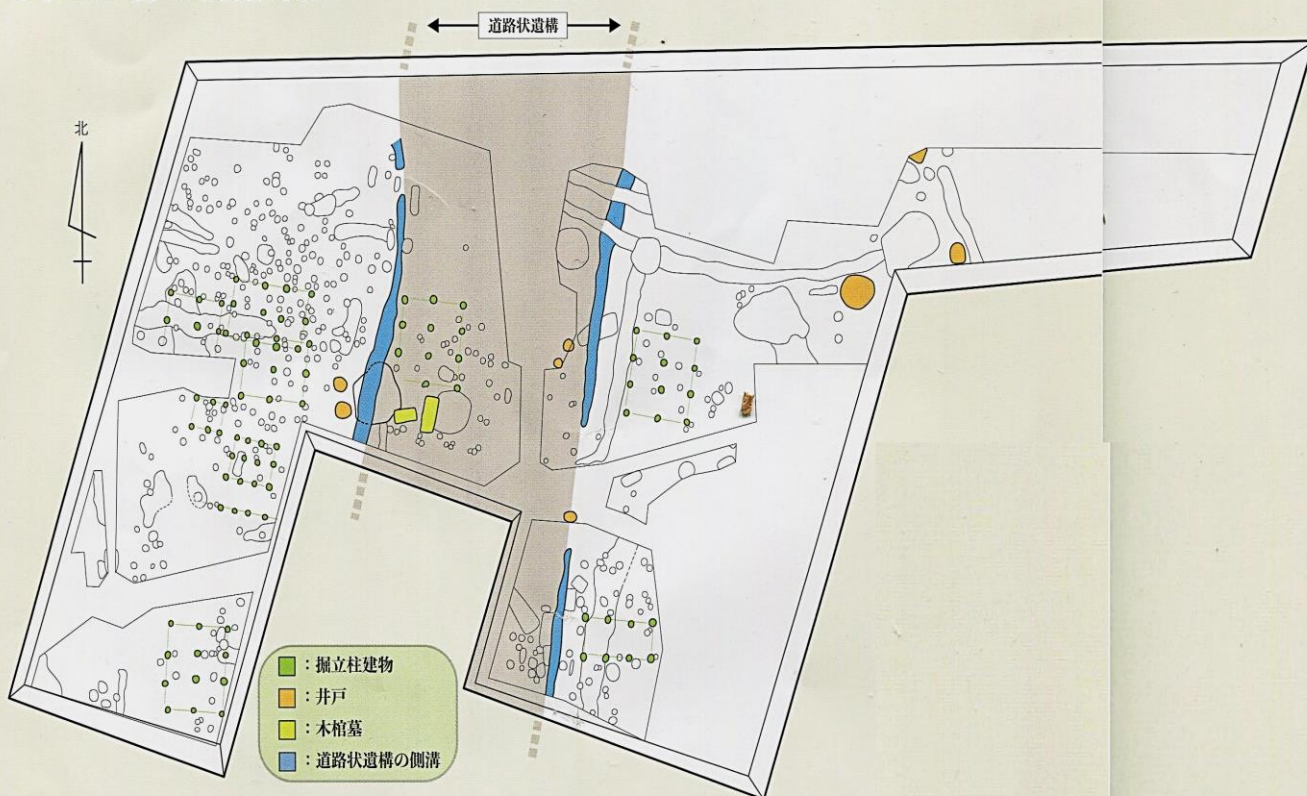
調査の結果、上層（平安～鎌倉時代）と下層（古墳～奈良時代）で多くの遺構や遺物が見つかりました。注目できる成果としては、2・3区下層では、古墳時代後期（今から1450年前）の古墳8基と多くの埴輪や須恵器、牛馬の歯が見つかり、1区下層では古墳時代中期～後期（今から1600～1450年前）の**竪穴建物33棟**や古墳時代中期の**古墳2基**が見つかりました。1区の古墳の周濠からは、多くの須恵器や土師器と共に**陶質土器**という朝鮮半島産の土器が見つかりました。

今回の説明会では、1区下層の調査成果を中心に公開します。



津門大塚町遺跡と周辺の遺跡

1区上層の調査成果



平安時代の掘立柱建物群（北西から）



平安時代の道路状遺構（北から）

1区上層では、奈良時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物や井戸、木棺墓、道路状遺構を検出しました。掘立柱建物は、現在8棟見つかっていますが、その他にも多くの柱穴が見つかっていることから、今後さらに増えると考えられます。

調査区の中央付近では、平安時代頃の南北方向に並行する溝を検出しました。この溝と溝に挟まれた場所では、周辺と異なる固くたたき締められた土が堆積しており、**道路状遺構**の可能性が考えられます。この道路状遺構と掘立柱建物のいくつかは、南北の主軸方向を同一にしており、道路沿いに建ち並んだ中世集落を想定することができます。

注) A4 版縦にそろえのため 図面それぞれ縦横比が原寸と異なります



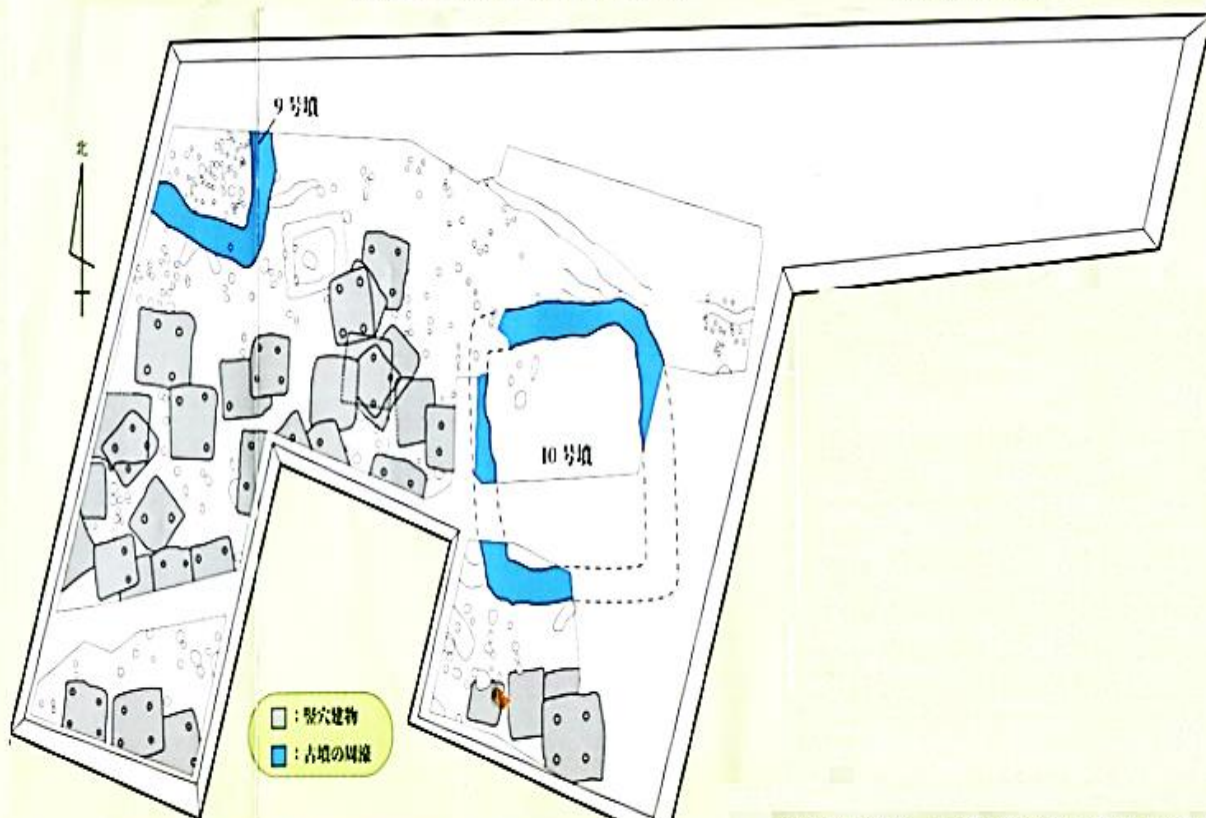
10号墳周濠内からの陶質土器



10号墳周濠から見つかった土器（南東から）



10号墳全景（北から）



竪穴建物から見つかった土器



密集する竪穴建物（北東）

1区下層では、古墳時代中期～後期（1600～1450年前）の竪穴建物33棟と、古墳時代中期（1600年前）の古墳2基が見つかりました。

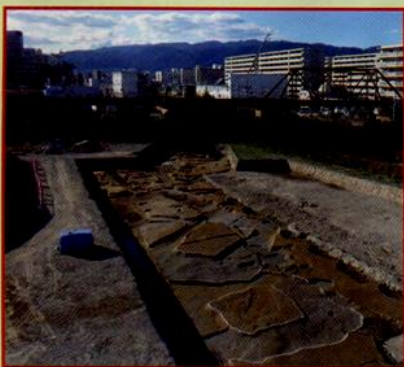
竪穴建物は複数棟が切り合って見つかっており、建て替えが行われたと考えられます。建物の中からは、須恵器や土師器の他に、紡錘車や鉄器製作に使用された砥石やフイゴの羽口、鉄器生産や加工時に生じる鉄の不純物（鉄滓）が出土しました。

古墳は2基とも方墳を検出しました。規模は一辺14m程度です。そのうちの1基（10号墳）の周濠からは、大量の初期須恵器や土師器の他に、朝鮮半島産の陶質土器や、鉄器が見つかりました。

1区下層の調査成果

注) A4 版縦にそろえのため 図面それぞれ縦横比が原寸と異なっています

調査成果のまとめ－古墳時代における津門地域の古墳と集落－



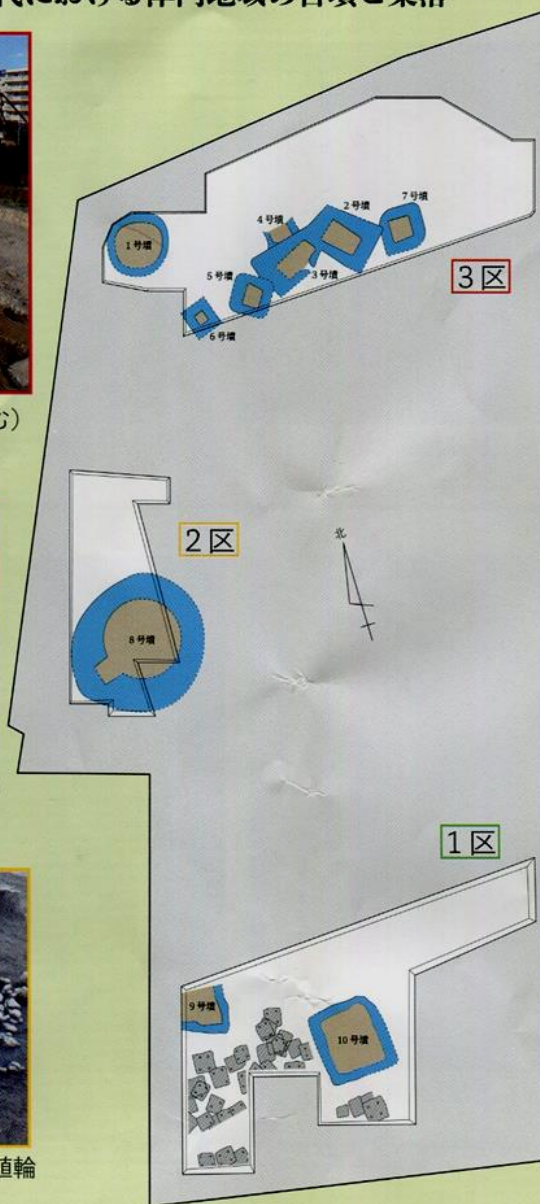
3区 古墳群遠景（東から西を望む）



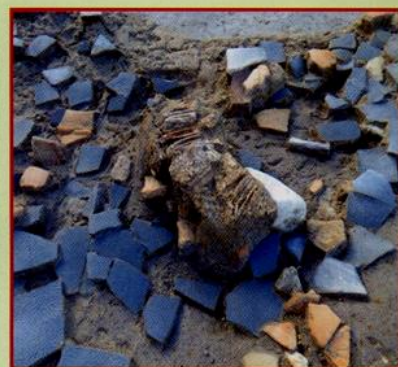
2区 8号墳全景（西から東を望む）



2区 8号墳くびれ部で見つかった埴輪



1～3区下層の調査成果



3区 5号墳周濠から出土した馬の歯



3区 5号墳周濠から出土した牛の歯



1区 古墳と密集する竪穴建物群
（東から西を望む）

今回の発掘調査の結果、古墳時代から鎌倉時代にかけての多くの遺構と遺物が見つかりました。その中でも特筆すべき成果としては、**古墳時代の古墳群と集落の発見**が挙げられます。

古墳群は、前期（4世紀頃）の円墳1基、中期前半（5世紀前半）の方墳2基、後期後葉（6世紀後半）の円墳1基・方墳6基の**計10基**を検出しました。中期の古墳の周濠からは、多量の須恵器や土師器と共に**陶質土器**や鉄器が出土しました。陶質土器は朝鮮半島南部で作られた物と考えられ、これらの地域と積極的に交流を持っていたことが伺えます。後期の古墳の周濠からは、多くの埴輪が出土した他、**牛と馬の歯**が見つかりました。牛の歯が古墳から出土した事例は日本列島でも極めて少なく、今回の発見は大変重要な成果といえます。

古墳群の南側では、方形の竪穴建物を**33棟**検出しました。これらの建物は、出土土器から古墳時代中期から後期にかけての建物であると判断でき、古墳群の造られた時期と同じであると考えられます。これらのことから、この建物に住んでいた人々は、**古墳群の造墓集団**である可能性が高いです。また、これらの建物からは鉄器製作関係の遺物が多く見つかっており、鉄器の製作・加工に従事していた集団が住んでいたとも考えられます。

陶質土器、牛馬の歯の出土や埋没古墳の検出は、いずれも西宮市域で初の事例であり、今回の発掘調査は西宮を含む阪神地域の歴史を考えるうえで大変貴重な成果を得たといえます。



兵庫県教育委員会
（公財）兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1（兵庫県立考古博物館内）
URL: <https://www.hyogo-etc.or.jp>